

議長諮問 3 項目ほか議会改革に関することについて（報告）

1. 議長諮問 3 項目

(1) 市議会を取り巻く情勢と現状認識。

地方分権が進む中、市政チェック機能、政策提案機能など、議会の果たすべき役割は、益々増大してきている。このような情勢の中、市民は議会に対し何を期待し、我々市議会は、その期待に応えきれているのか。市民の厳しい視線を意識し、現状を総括すること。

(2) 情報発信、市民ニーズの把握のための取り組み。

これまで一般質問での一問一答方式の導入、反問権、委員会の公開や自由討議の導入など、わかりやすい議会をめざして様々な取り組みを進めるとともにインターネットによるライブ中継、議会だよりを通じた情報発信に努めてきた。今後も議会活動を多くの市民の皆さんに御理解いただき、そのニーズを議会活動に反映していくことは重要な責務であり、今後の情報発信、市民ニーズの把握について、さらなる取り組みを検討すること。

議会は、市民の代表として市の発展に必要な決断をしていくという大きな役割があるものの、議員が何のためにいるのか市民にわかりにくい状況がある。

市民の議会に対する厳しい視線がある中、積極的に情報発信しなければ、議会に対する関心は薄くなっていく。こうしたことから、市民ニーズ把握のため市民アンケートに取り組んだ結果、77%の方が、議会に「関心がある」又は「少しはある」と回答いただいたように、多くの市民が議会に関心を持っていた。しかし、議会に対し43%が「全く評価しない」又は「あまり評価しない」と回答し、「大いに評価する」又は「ある程度評価する」の23%を大きく上回った。これは、議会に市民の声が「反映されていると思わない」と回答した市民が52%もあったことと合わせ、反省するとともに、今後、これらの声に真摯に応えていかねばならないと考える。

また、議会への期待では、議会による政策提言や市民の声を聴く取り組みを求める声が、行政へのチェック機能や市民との相談を求める声を上回ったほか、議会改革の面でも、もっと市民の声を聴く場をもってほしい、議員定数や報酬を減らすべきとの、誠に厳しい意見をいただいた。

こうした意見をふまえて議会全体での報告会に取り組み、議会活動の報告や市民との意見交換を行った。参加者の多くから実施を評価する声をいただいた一方、議会のチェック機能や議員の資質向上に関する意見も多くあった。これらの取り組みの結果にも見られるように、市民の貴重な声を聴く場、情報発信の場として、必要に応じ市民アンケートの実施や、議会報告会の定着を図る必要がある。

(3) 前2項をふまえた議員の定数、報酬及び政務調査費の検討。

1. 議員定数については、市民の厳しい声、長引く不況、市の厳しい財政状況や市の行政改革の取り組み等をふまえ、一定の削減を図る必要がある。本委員会として、現行定数22から2減の20とする。なお、議員定数の削減は議会のチェック機能、公聴機能の低下につながることから現状維持を求める意見や、厳しい現状をふまえ4減の18を求める意見、また、今後積極的な議会活動に努め、市民とのつながりを深め、さらなる定数の削減を求められることのないよう取り組む必要があるとの意見等があった。
2. 議員報酬については、議会活動に専念できる報酬、若年層が市議会議員を目指せるような報酬が必要であるとの議論もあったが、厳しい状況の中、現状維持にすべきと考える。
3. 政務調査費については、現行額では、議員の資質向上に必要な研修、調査研究には不十分との議論もあったが、厳しい状況の中、現状維持にすべきと考える。

2. 議員派遣のあり方

議員派遣本来の趣旨に沿った派遣について検討をすること。

議決を必要とする議員派遣は、他市の例を見ても、議長会行事等の派遣に限られ、本市議会においては実質的に運用されていない。しかし、議員の資質向上を図るために活用するなど、議員派遣としての位置付けを再度検討する必要がある。

3. 議会活動報告（議会だより、インターネット録画配信、市民報告会など）

本会議、委員会、各種視察などの結果をあらゆる可能な手段を利用して公開し、市民の議会に対する理解を深める方策を検討すること。

これまで委員会の公開、インターネットのライブ中継、議員手作りの議会だよりなど情報発信に努めてきたが、アンケート調査によると必ずしも十分伝え切れているとは言えない。このことをふまえ、議会だよりのさらなる充実を図るとともに、本年実施した議会報告会を定着させ、内容の改善を図るなど、「開かれた議会、わかりやすい議会」を目指し、より一層の取り組みが求められる。